

印西大師 番外 山田・二ノ宮 ※※

- 1 名称 (No.128)〔手引鏡：二ノ宮〕
- 2 場所 印西市吉高字山田道珍前付近
吉高・蕪和田堂から道程約1570m、花島山から道程約1,310m

GPS座標

- 3 由緒
- 4 御堂
- 5 境内
- 6 写真
- 7 情報

(1) 二ノ宮の推測

手引鏡によると、蕪和田堂→9丁半27間(1085m)→山田・二ノ宮→9丁(982m)→平賀・離島→12丁半10間(1382m)→山田・大広堂→3丁半13間(405m)→山田・円天寺となっている。

これを明治初期の「迅速測図」に落としてみると、概ね距離的には○印のあたりに山田・二ノ宮や大広堂があったのではないかと考えられる。

また、手引鏡の文書の冒頭、先達三寺（南陽院、来福寺、広福寺）の次に「元世話人 山田区二宮道珍」とある。先達三寺に次ぐ4番目という位置からして二宮道珍という方は、印西大師の有力者のひとりと思われる。高野デザインプロデュース・千葉県古民家再生協会の周辺の小字は「山田道珍前」である。つまり、蕪和田堂から円天寺方面に向かうには鶴巻の集落を通る青点線のルートが無理のないルートと思われるが、山田道珍さんは、遠回りとなっても自分の集落の大師堂まで巡行ルートを伸ばしたのではなかろうか。離島までの往復の際に、二宮において御接待が行われたのではないかと想像するところである。なお、このあたりには、二宮姓の方が現在でも多いようだ。

